

October 1, 2020

【前日の為替概況】ポンドドル、月末・期末絡みの買いで1.2942ドルまで上昇

30日のニューヨーク外国為替市場でポンドは全面高。英国と欧州連合（EU）の将来関係を巡る最終協議が進む中、欧州序盤はポンド売りが優勢となったものの、NY市場では底堅く推移した。月末・期末を迎えたロンドン16時（日本時間24時）のフィキシングに向けてポンド買いのフローが入り、ポンドドルは一時1.2942ドル、ポンド円は136.54円、ユーロポンドは0.9067ポンドまでポンド高に振れた。

ユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.1721ドルと前営業日NY終値（1.1744ドル）と比べて0.0023ドル程度のユーロ安水準。ドイツのミヒャエル・クラウス駐EU大使が「EU復興基金の運用開始の遅れ」を警告したほか、ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁が現在進めている戦略見直しについて「米連邦準備理事会（FRB）に追随して目標を上回る物価上昇率を容認する可能性」を示唆すると、全般ユーロ売りが先行し、1.1685ドルと日通し安値を付けた。米国株相場の上昇を背景にリスク・オンのドル売りが出たことも相場を下支えし、一時1.1752ドル付近まで持ち直した。EU復興基金を巡る懸念やECB総裁発言が引き続き意識されて、買い戻し一巡後は1.1706ドル付近まで押し戻された。

ドル円は反落。終値は105.48円と前営業日NY終値（105.66円）と比べて18銭程度のドル安水準。ムニューシン米財務長官とペロン米下院議長（米民主党）が暗礁に乗り上げている新型コロナウイルス経済対策を巡る交渉の打開に期待を表明すると、ダウ平均が一時570ドル超上昇。リスク・オンのドル売りが出て、105.40円と日通し安値を更新した。月末・期末のロンドン・フィキシングに絡んだドル売りのフローも観測された。前日の安値105.34円が目先サポートとして意識されるといったんは105.64円付近まで下げ渋ったものの、戻りは鈍く引けにかけては105.42円付近まで押し戻された。

米共和党のマコネル上院院内総務が「経済対策巡り、米共和党と民主党は大きな隔りがある」との見解を示し、ムニューシン財務長官が「米経済対策の合意はまだない」と発言すると米国株は上げ幅を縮小。

ユーロ円は3日ぶりに反落。終値は123.65円と前営業日NY終値（124.08円）と比べて43銭程度のユーロ安水準。米国株の大幅上昇に伴う円売り・ユーロ買いが出て123.94円付近まで値を上げたものの、EU復興基金を巡る懸念やECB総裁発言が意識されて全般ユーロ売りが強まると123.53円まで反落した。

【本日の東京為替見通し】中国市場が休場、明日の米9月雇用統計控えて動意に乏しい展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、中国市場が本日から8日まで国慶節で休場となること、明日に米9月雇用統計の発表を控えていることで、動きづらい展開が予想される。

しかし、NY株高・債券安（金利上昇）のリスクオン地合いのドル安&円安を、金利上昇のドル高が相殺するので、「ドル安」より「円安」が優勢となるため、ドル円は上昇する傾向にあることで、上値リスクに要警戒となる。

昨日のダウ平均は、共和党と民主党による新型コロナ景気対策法案の協議が前進しているとの期待感から一時573ドル高まで上昇していた。しかし、米下院が米経済対策法案の採決を見送り、米共和党のマコネル上院院内総務発言「経済対策巡り、米共和党と民主党は大きな隔りがある」やムニューシン米財務長官発言「米追加経済対策の合意はまだない」を受けて、329.04ドル高で終了しており、本日も経済対策法案の関連ヘッドラインに要警戒となる。

9月調査の日銀短観では、大企業製造業業況判断DIの予想は-23となっており、6月調査の-34からの改善が見込まれている。注目ポイントは、12月に向けた業況判断と大企業・製造業2020年度下期想定為替レートとなる。

ドル円の注文状況は、上値には、105.80円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、105.90円と106.00円にもドル売りオーダーが控えている。下値には、105.20円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

ドル円のテクニカル分析では、陰線新安値5手で一目均衡表・雲を下抜けて104.00円まで下落した後、下ヒゲを伸ばした切り込み線などで反発しているものの、攻防の分岐点である雲の下限105.81円に届いていないこと、遅行スパンも逆転したままであることで、緩戻しに過ぎない可能性が示唆されている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース、2 週分）
- 08:50 ☆ 日銀・企業短期経済観測調査（短観、9 月調査）
- ☆ 大企業製造業の業況判断指数（DI、予想：▲23）
- ◎ 大企業非製造業の業況判断指数（DI、予想：▲9）
- ◎ 大企業製造業 DI・12 月見込み(予想：▲17)
- ◎ 大企業非製造業 DI・12 月見込み(予想：▲9)
- ◎ 大企業全産業設備投資計画（前年度比、予想：1.3%）

<海外>

- 15:15 ☆ インド中銀、金融政策決定会合（予想：4.00%で据え置き）
- 15:30 ◎ 9 月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比横ばい）
- 15:30 ◇ 8 月スイス小売売上高
- 16:00 ◇ 9 月トルコ製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：53.8）
- 16:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 16:30 ◇ 9 月スイス SVME 購買部協会景気指数（予想：54.0）
- 16:50 ◎ 9 月仏製造業 PMI 改定値（予想：50.9）
- 16:55 ◎ 9 月独製造業 PMI 改定値（予想：56.6）
- 17:00 ◎ 9 月ユーロ圏製造業 PMI 改定値（予想：53.7）
- 17:30 ◎ 9 月英製造業 PMI 改定値（予想：54.3）
- 18:00 ◎ 8 月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比 0.1%/前年比▲2.7%）
- 18:00 ◎ 8 月ユーロ圏失業率（予想：8.1%）
- 19:20 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 20:30 ◇ 9 月米企業の人員削減数（チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス社調べ）
- 21:30 ◎ 8 月米個人消費支出（PCE、予想：前月比 0.8%）
- ◎ 8 月米個人所得（予想：前月比▲2.4%）
- ☆ 8 月米 PCE デフレーター（予想：前年比 1.2%）
- ☆ 8 月米 PCE コアデフレーター（予想：前月比 0.3%/前年比 1.4%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：85.0 万件/1222.5 万人）
- 22:45 ◎ 9 月米製造業 PMI 改定値（予想：53.5）
- 23:00 ☆ 9 月米 ISM 製造業景気指数（予想：56.3）
- 23:00 ◇ 8 月米建設支出（予想：前月比 0.8%）
- 24:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 2 日 00:45 ◎ レーン欧州中央銀行（ECB）専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 2 日 03:00 ◎ 9 月ブラジル貿易収支（予想：71.00 億ドルの黒字）
- 2 日 04:00 ◎ ボウマン米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 米財務省 3 年、10 年、30 年債入札条件
- 欧州連合（EU）首脳会議（ブリュッセル、2 日まで）
- 韓国（秋夕）、香港、中国（国慶節・中秋節）、休場
- 英国と欧州連合（EU）の首席交渉官級による第 9 回協議（ブリュッセル、2 日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

30日 09:12 経済産業省幹部

「鉱工業生産、今後の更なる回復を期待 生産水準は依然低い」

30日 10:14 トランプ米大統領

「我々は選挙に勝ったので、次期最高裁判事を選ぶ権利がある」

「オバマケアは良くない。我々が良くした」

「数週間後にワクチンが出来る。タイミングは当局者と意見が異なる」

「中国からの渡航禁止の決定は、素晴らしい」

「私の集会は、コロナ拡大につながっていない」

「我々は最も偉大な経済を実現したが、中国のコロナウイルスで邪魔された」

「私は、2016年と17年に数百万ドルの所得税を支払った」

「私の政策で700万人の雇用を生み出す」

「トランプ大統領が行った減税を撤廃するだろう」

「法と秩序に重点を置く姿勢を継続」

「投票の判断で最高裁を頼りにしている」

「郵便投票は、前例のないようなごまかしにつながる」

30日 10:16 バイデン民主党候補

「次期最高裁判事を選挙前に選ぶのは適切ではない」

「医療面でトランプ米大統領の政策は国民に全く役になっていない」

「トランプ米大統領は何もしていない」

「新型コロナウイルスについてトランプ大統領は嘘をたくさんついてきた。」

「トランプ大統領が新型コロナを話さなかったのは、株価を見てたからだろう」

「経済を回復するためには新型コロナウイルスに対応しなければいけない」

「大富豪だけが儲けた」

1日 02:01

「次回討論会を楽しみにしている」

「今回の討論会におけるトランプ氏の行動は国家の恥」

30日 16:31 ミュラー・エストニア中銀総裁(ECB 運営評議会メンバー)

「ユーロの見通しについては心配していない」

「回復が以前ほど速く続くとは思わない」

30日 16:37 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「ECBの目標を達成するために必要な限り、政策の拡張性を維持する必要がある」

「インフレが低すぎる場合に利用できるツールについて、明確なコンセンサスが必要」

30日 17:23 ワイトマン独連銀総裁

「大規模な国債購入は、財政、金融政策の間の境界線を曖昧にするリスクがある」

「ECBの権限の拡大は、独立性を脅かす可能性がある」

30日 18:02 カジミール・スロバキア中銀総裁

「ユーロ圏のデフレリスクは均衡している」

「ECBはおそらく、現在の政策をかなりの期間維持するだろう」

1日 02:11 カプラン米ダラス連銀総裁

「ゼロ金利政策を今後2年半から3年続ける必要」

1日 02:49 ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事

「データは米経済が急速に回復していることを示唆」

「失業率は依然として非常に高い」

「継続的な金融・財政支援が必要となるだろう」

1日 03:27 米共和党のマコネル上院院内総務

「経済対策巡り、米共和党と民主党は大きな隔たりがある」

1日 04:14 ムニューシン米財務長官

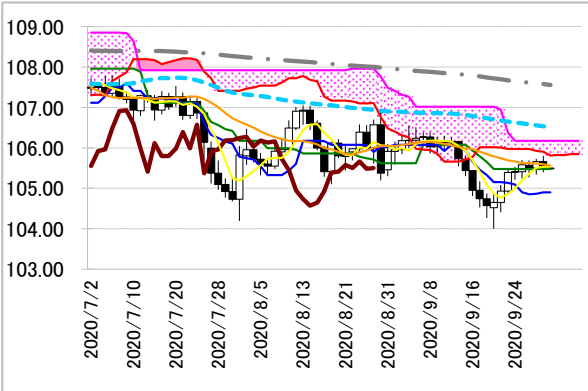
「米追加経済対策の合意はまだない」

1日 05:33 ブラード米セントルイス連銀総裁

「米経済により強気になっている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

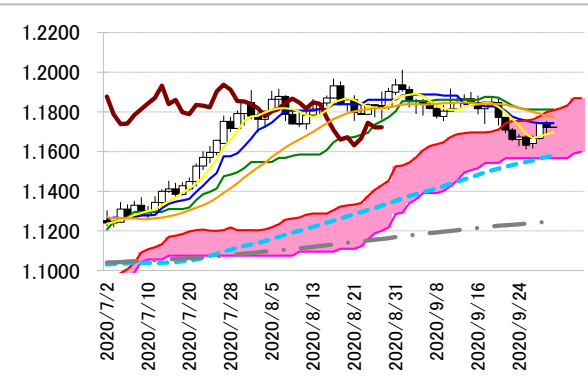


<ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、陰線新安値5手で下落後、切込み線で反発し、転換線を上回って引けており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	105.81(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	105.48
サポート1	104.90(日足一目均衡表・転換線)
サポート2	104.41(9/22 安値)

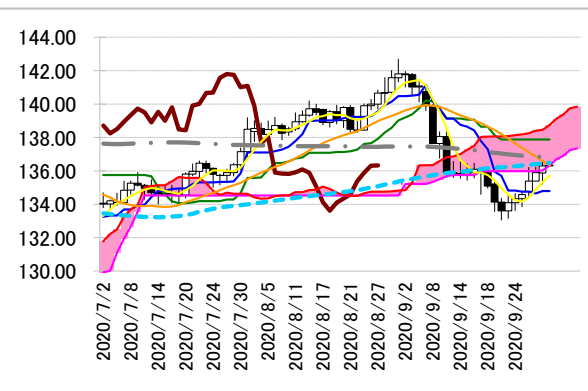


<ユーロドル=雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。陰線新安値9手で下落後、2手連続陽線で反発したものの、孕み線で転換線を下回って引けたことで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1807(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	1.1721
サポート1	1.1661(9/29 安値)

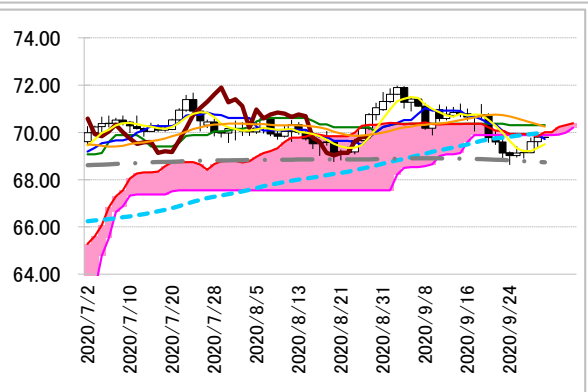


<ポンド円=9/30 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、6手連続陽線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、9月30日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	137.88(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	136.31
サポート1	135.19(9/30 安値)



<NZドル円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けたことで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	70.31(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	69.80
サポート1	68.64(9/24 安値)

